

令和8年度全国学力・学習状況調査の結果

京都市立元町小学校

4月23日に、全国の6年生を対象に実施された「全国学力・学習状況調査」についての結果がまとまりました。本調査は、国語・算数の2教科のテストと同時に、家庭での過ごし方や、日頃の行動・意識等を問う調査(アンケート)も実施されています。全国などの結果を踏まえた、本校の子どもたちの状況をお伝えします。

総合結果 (国語・算数)

本校の平均正答率は、2教科(国語・算数)において、全国平均を大幅に上回る良好な結果でした。記述式の問題も、両教科とも最後まで取り組んでいました。

国語科より

全体的によくできています。特に、「書くこと」と「読むこと」の正答率が、全国・京都府の平均と比べて15%~20%と大きく上回っていました。設問2四の、本文の空欄に、集めた情報をもとにして文章を書く問題では、必要な情報をぬき出した上で、うまく文章化してまとめることができ、全国・京都府平均より約25%も上回っていました。また、設問3三(1)の、文章全体を読んで概要を把握する問題では、本文を読んだ感想の話し合いの中の空欄に入る適切な言葉を正確にとらえられ、全国・京都府平均より約23%上回っていました。これは普段の国語科の授業の中で、言葉に着目して筆者の意図を考えたり、与えられた情報をもとに、文章をまとめたりすることを繰り返し行ってきた成果が出たのではないかと考えられます。

一方で、設問1一の、「相手に伝わるように、理由や事例などを挙げながら、話の中心が明確になるよう話の構成を考えることができるかどうかをみる」問題や設問1二(2)「資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫することができるかどうかをみる」問題では、全国・京都府平均を約10%下回っていました。いずれも、自分の考えを相手にうまく伝えるための工夫のしかたについて問われた問題です。児童質問紙調査でも、自分の考えを発表する機会において、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していたことができにくかったと答えていた児童がいました。自分の考えが相手に伝わるように、理由や事例を含め話の構成を考えたり、資料を活用する方法を教えたりしていくことが大切です。このことを教職員で共有し、2学期以降よりよい授業になるよう努めていきます。

算数科より

全体的によくできています。特に記述式の問題で、全国・京都府の平均を約16%上回っていました。設問3(3)の異分母分数の大小を問う問題では、理由を正しく記述した上で、正答することができ、京都府平均を約23%上回っていました。

また大問4の、表に示された情報を読み取る、表内の誤った情報を見つけ、その根拠を表の中の言葉や数字を用いて記述するなどの情報処理の問題については、全国・京都府の平均を各問題で12%~20%上回っていました。普段の授業で、図表に親しむ活動をしていること、また問題解決の中で、答えだけを導くのではなく、答えに至った根拠や理由を説明し合いながら学習していることが、記述問題の正答率の高さにつながったのではないかと考えます。

一方で、設問2(3)「単位量あたりの大きさ」に関する問題で、どちらが混んでいるのか調べるためのわり算の意味を問う問題では約11%、設問2(4)の赤いテープの長さが、白いテープの長さの1.5倍になっている図を二つ選ぶ問題では、約5%全国・京都府の正答率を下回りました。このことから、もとにする量を意識した上で、混み具合や割合を求めることを大切にして学習を進めていく必要があると考えます。

そのほか、1(3)体積の意味を問う問題では約4%、2(1)概数で正確に表す問題についても、約12%全国・京都府の平均を下回っていました。このあたりは、しっかりと反復練習をして、次につなげていきたいと思います。

児童質問紙調査より（総評）

生活習慣についての質問では良好で、毎日朝ご飯を食べ、決まった時刻に起床・就寝をしているという回答がほとんどでした。そして家庭学習に要している時間も、京都府・全国と比べて圧倒的に多いという結果でした。

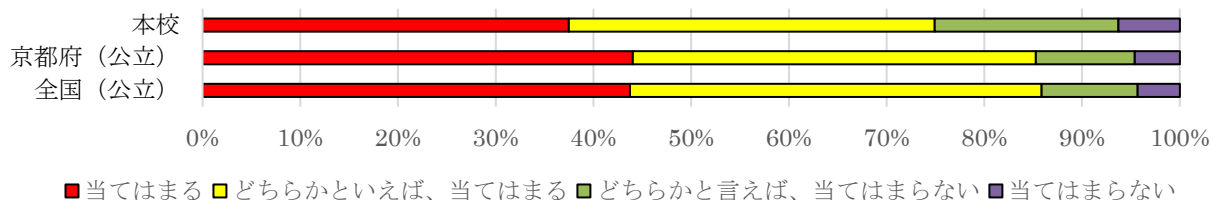
また「学校の勉強のことを家族に話す」、「自分のよさを先生に認めてもらっている」という周りの大人についての質問についても、全国・京都府と比べて良好な結果が出ていました。

SNS やゲームをしている時間についても、京都府・全国と比べて、時間が少ないという回答が多い結果でした。ただ、タブレット端末を使った学習については、文章を作成したり、情報を収集したりすることはできても、図や表、思考ツール等を使って情報を整理したり、プレゼンテーションに使う資料を作ったりということについては、苦手意識を感じている児童がいる結果となっていました。各教科におけるタブレット端末を使った授業、総合的な学習の時間を始めとした工夫した発表をねらいとした授業を引き続き目指していく必要があると考えます。

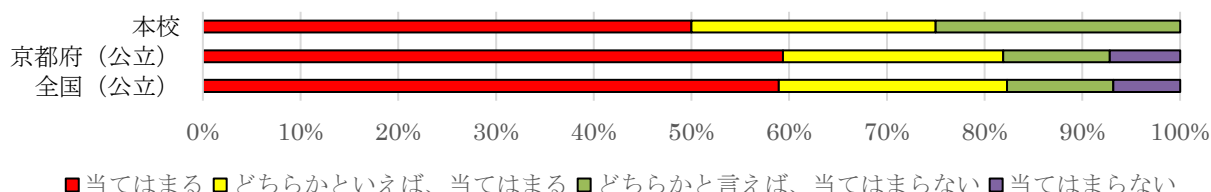
次にありますのは、京都府・全国と比べての回答が気になった2点です。これからの指針と共に挙げさせていただきます。

児童質問紙調査より（１）

自分には、よいところがあると思いますか



将来の夢や目標を持っていますか



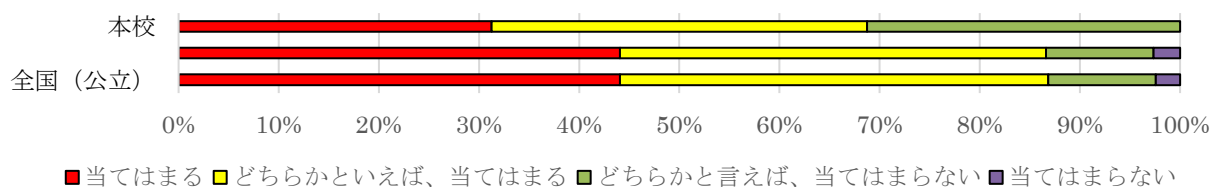
「自分には、よいところがあると思いますか。」という質問では、本校では、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した割合は、約75%でした。京都府では約85%、全国では85.6%となっています。本校は、京都府、全国よりも約10%低い結果となりました。「将来の夢や目標を持っていますか。」という質問も、本校は、京都府・全国と比べて約7%低いです。

今年度から、本校は「キャリアデザイン」の取組として、めあてを定期的に立て、ふりかえることを習慣化して行っています。また2学期は、運動会や学習発表会など6年生が中心となって活躍する行事も多く控えています。行事も含め、様々な活動に対して、めあてをもって取り組み、それを教職員全員が認めていくことを続けることで、児童一人ひとりが、自分自身のよさに気付けるようになっていってほしいと思います。

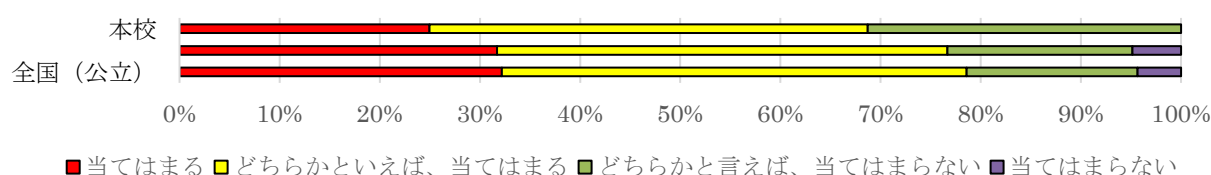


児童質問紙調査より（２）

学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、
新たな考え方に気付いたりすることができていますか



自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか



「話し合う活動を通じて、考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりできているか」という質問には、本校では、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した割合は、約69%で、京都府、全国よりも約17%低い結果となりました。「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか」という質問でも、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した割合は、京都府・全国よりも約8パーセント低かったです。

本校では今年度、対話的な学びの中で、聴き合う活動を研究しています。友達の見解を取り入れ、自分の考えにつなげていくしかけを各教科の学習で実践しているところです。教職員が互いの授業を見合い、授業改善に意識して取り組むことで、児童が友達と対話して、楽しく有意義だったと感じられる授業を目指していきます。

保護者の皆様へ

全国調査は、子どもたちの学習状況を知り、子どもたちの可能性を更に伸ばしたり、課題を解決したりしていくためのものです。

今回の本校の結果を見ると、子どもたちは、学習面や生活面において多くの点で着実に力をつけてきていることが分かります。ご家庭での積極的な支援や本校の教育に対してのご理解・ご協力があるからこそだと思っております。感謝申し上げますとともに、引き続き、子どもたちの健やかな育ちと学びの環境づくりに、ご協力をお願いいたします。